

**令和5年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
「キビキビ通学合宿」**

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

家庭から離れた共同生活の中で、様々な生活体験活動を通して、「生きる力」の基盤となる豊かな人間性や人間関係能力を高めるとともに、基本的な生活習慣の定着や規範意識の向上を図る。また、森林について学ぶ活動、森林の中での体験活動を通して、多面的・総合的なものの見方や思考力を育む。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和6年2月13日（火）～2月17日（土）4泊5日

(2) 参加者

① 事業対象・人数

吉備中央町内の小学3年生～6年生 24人

② 参加人数

23人

(3) 企画・運営のポイント

- ① 合宿のテーマを「早寝早起き朝ごはん」とし、規則正しい就寝・起床のリズムを友達と揃えることに加え、洗濯や洗い物も自分たちで行うことで、日々の生活の中での準備・片付けの大変さを知るとともに、家族への感謝の気持ちを培うようにした。
- ② 班編成の際に学校および学年を分散させることで、他校の児童とふれあう機会を創出した。
- ③ 昨年度までの交流中心のプログラムから変更し、森林環境教育を取り入れた活動を組み込んだ。森の役割や森と自分たちの生活とのつながりについてグループワークを通して学んだあと、秘密基地の計画づくりや、実際に秘密基地づくりを行った。

3. 活動の内容等

(1) 日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
1日目 2月13日(火)	学校											キビ キビ 宿題 タイム	開 会 式	夕 食	キビ キビ 交流 タイム	入浴	班 会	就 寝 準 備	就 寝
2日目 2月14日(水)	起 床 ・ 清 掃	洗 面	朝 の 会	朝 食	登 校	学校						キビ キビ 宿題 タイム	夕 食	森 に つ い て 知 ろ う !	入浴	班 会	就 寝 準 備	就 寝	
3日目 2月15日(木)	起 床 ・ 清 掃	洗 面	朝 の 会	朝 食	登 校	学校						キビ キビ 宿題 タイム	夕 食	ど ん な 秘 密 基 地 を つ く る ?	入浴	班 会	就 寝 準 備	就 寝	
4日目 2月16日(金)	起 床 ・ 清 掃	洗 面	朝 の 会	朝 食	登 校	学校						キビ キビ 宿題 タイム	夕 食	ロ ー プ ワ ー ク に チ ャ レ ン ジ !	入浴	班 会	就 寝 準 備	就 寝	
5日目 2月17日(土)	起 床 ・ 洗 面	清 掃	朝 の つ ど い	朝 食	点 検	秘 密 基 地 づ く り に チ ャ レ ン ジ !	秘 密 基 地 で の ん び り 食 事	ふ り か え り 片 付 け	閉 会 式										

(2) 活動の状況



【オリエンテーション】



【キビキビ交流タイム】



【キビキビ宿題タイム①】



【キビキビ宿題タイム②】



【夕食】



【下校】



【森について知ろう】



【ラジオ体操】



【洗い物】



【登校】



【どんな秘密基地をつくる？】



【ロープワーク】



【秘密基地づくり①】



【秘密基地づくり②】



【秘密基地でのんびり食事】



【閉会式での発表】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：64% やや満足：29% やや不満：7%

(2) 参加者の声

- ① 森の大切さと仲間との時間が大切だということが分かった。仲間と協力すれば秘密基地などいろいろな事が出来るんだと分かった
- ② 森にはいろんな役割があることが分かった。
- ③ 自分のことは自分ですということがとても大変だと知った。
- ④ 自分のことは自分ですることや、友達とコミュニケーションをとること、助け合うことが大事だと感じた。災害の時に身を守るための事も知れた。

(3) 成果

- ① 宿題タイムでははじめはなかなか集中できず、喋ってしまう参加者も見られたが、2日目からは宿題用の部屋を複数準備したり、宿題が終わった参加者のための部屋を用意したりし、集中して取り組める環境を設け、少しずつ早く終わるようになった。
- ② 宿泊棟にホワイトボードを設置し、夜や朝に取り組むことを提示しておくことで、子供たちが自分で時間を意識して取り組むことができた。
- ③ 夜の活動では、はじめはボランティアや職員が入って進めていたグループワークも、数日間取り組むうちに子供たちだけで話し合ったり、工夫したりする様子が見られた。
- ④ 森林環境教育を取り入れ、森の役割や森と自分たちの生活とのつながりについてグループワークを通して学んだあと、秘密基地の計画づくりや、実際に秘密基地づくりを行った。一連の流れを通して、秘密基地作りの中でもゴミを落とさないように気を付けたり、秘密基地づくりと森の役割の繋がりについて考える様子が見られた。

(4) 今後の課題

初日は宿題に時間がかかったため交流タイムがほとんど取れず、初めて顔を合わせる参加者には心理的な負担の大きいものとなってしまった。今回は2日目以降に交流タイムを多めに入れて対応したが、下校時間などを踏まえて開催日程の設定をする必要がある。

担当：企画指導専門職付 角田 怜那